

The Japan Dickens Fellowship

NEWSLETTER Fall 2008

Department of English Literature
Graduate School of Arts and Letters, Tohoku University
17-24 Kawauchi, Aoba-ku, Sendai 980-8576
Tel & Fax +81(0)22-795-5961(Department Office)
E-mail :hara_ei@sal.tohoku.ac.jp
http://www.soc.nii.ac.jp/dickens/



2008年11月30日

2008年秋季総会報告

Annual General Meeting 2008 at Osaka Gakuin University



2008年度の秋季総会は10月4日(土)、大阪学院大学(大阪府吹田市岸部南)にて開催されました。参加者は約40名、清新な若手による研究発表と佐々木副支部長による講演が行われました。大会をオーガナイズしていただいた永岡規伊子先生、西條智子先生はじめ、大阪学院大学の皆様に心より深く感謝申し上げます。

2008年度秋季総会

原支部長が個人的事情で欠席のため、佐々木徹副支部長を議長として審議が行われました。

○ 2008年度会計報告

中村財務理事から次の通り報告があり、了承されました。

ディケンズ・フェロウシップ日本支部
2008年度会計報告(2007年10月1日~2008年9月30日)

収入の部

収入名目	金額	備考
前年度繰越金	851,570円	
会費	1,235,000円	①一般：(8,000円×147=1,176,000円) -1,000円+ (6,000円×2=12,000円) =1,187,000円 ② ②院生：6,000円×8=48,000円 計=①+②=1,235,000円
印税	185,400円	『ディケンズ鑑賞大事典』の印税
預金利息	321円	
合計(A)	2,272,291円	

②1名が1,000円不足の振込で-1,000円、2名が昨年度未納分の振込で6,000円×2=12,000円

※08年度の会費未納者5名

支出の部

支出名目	金額	備考
ロンドン本部へ	462,783 円	<i>The Dickensian</i> 購読料含む
年報印刷費 (30号)	434,700 円	
講師謝礼	20,000 円	2007 年秋季総会
講師謝礼	10,000 円	2008 年春季大会
学生アルバイト代	15,000 円	2007 年秋季総会
郵送通信費 (振込手数料含む)	108,795 円	秋季総会・春季大会プログラム発送費、年報発送費、 <i>The Dickensian</i> 発送費、振込手数料、等を含む
合計 (B)	1,051,278 円	

◎収支決算 (次年度への繰越金) : 合計 (A) 2,272,291 円 - 合計 (B) 1,051,278 円 = 1,221,013 円

2008 年度会計を以上の通り報告いたします。

2008 年 10 月 4 日

理事 (財務担当) 中村隆

上記の通り相違ありません。

監事 植木研介

○役員人事について

役員について、1 期目が満了となる支部長、副支部長、監事、財務理事については留任が承認されました。新しい理事として田中孝信、武井暁子、榎正行、松本靖彦の4氏の就任が承認されました。また、新たな「補佐」として「Net担当補佐」を設け、松岡光治氏に就任していただくことになりました。

○生誕200年記念論文集の発行

「支部長からの提案」にあるように、論文集を発行する方向に向けて鋭意努力する、という方針が承認されました。

○春季大会と秋季総会の一本化について

「支部長からの提案」として出された春季大会と秋季総会を一本化して年1回の開催とすることについて、種々議論が行われました。その結果、これについては継続審議とすることになりました。

研 究 発 表

司 会 山本史郎 (東京大学)

作家と挿絵画家 対になる思想 ——*Oliver Twist*を中心に——

大前 義幸 (おおまえあきゆき 日本大学大学院)

*Oliver Twist*の挿絵を提供したGeorge Cruikshankは、この小説の原案を提供したのは自分であると後年述べています。それは果たして正確であるのかどうか、この発表ではディケンズの当時の書簡などを参照しながら検討しています。おなじみの挿絵の背景にある情報などを提供していただきました。発表時間が短すぎて、やや追求が不足していた感がありました。さらに多くの資料にあたると説得力が増すことでしょう。



The Picturesque and Reality in *Pictures from Italy*

木島 菜菜子 (このしまななこ 京都大学大学院)



ディケンズの作品の中でも *Pictures from Italy* は最も読まれず、批評家の評価も低いものです。木島さんの発表は、この作品の中にディケンズの独創的な創作術を認め、再評価を試みたものでした。「ピクチャレスクなもの」をあえて排除して、醜悪な現実の方に目を向けていくディケンズの手法は、ロンドンを描き出すときと何ら変わるものではありません。堅固な論理で組み立てられ、テキストの深い読みによって支えられた、大変刺激的な内容でした。

講 演

司 会 鶴飼信光 (九州大学)

近代的ディケンズ批評の源流を温ねて^{たず} ——ミラー、マーカス、リーヴィス——

佐々木 徹 (ささきとおる 京都大学教授)

本講演で、佐々木徹氏は、近代的ディケンズ批評の源流であるミラー、マーカス、リーヴィス夫妻を再読して、その歴史的意義と問題点を克明に明らかにしました。チェスタトンやウィルソンを批判的に読み直された作業の継続となっています。親しみやすいお話しぶりの中で、これら先達たちを公平公正にさばいていく鋭利な読み方に、いつものことながら感心させられました。「小説読みとしては(夫より)リーヴィス夫人の方が断然優れている」など、首肯させられることばかり。佐々木氏はこのように故きを温(たず)ねたのみならず、最後の方では『ニッケルビー』の一カ所にしか登場しない少年が他の作品で何度も「よみがえる」様を見事に提示され、テキストの細部に常に鋭敏な感性で接することによって「新しきを知る」ことができることを証明されました。佐々木氏がリーヴィス夫人に負けず劣らずの手練れの「小説読み」であることをあらためて認識させられ、唸らせられました。

※研究発表・講演の様子は「ヴァーチャル・カンファレンス」で追体験させていただきました。VOD担当の梶山さん、いつもありがとうございます。(原英一)

懇 親 会



大会終了後、キャンパス内の職員食堂、シダ・レストランで30名ほどが参加して懇親会が開かれ、荻野先生による乾杯の音頭のあとは、酒池肉林(安い会費にもかかわらず豪華な料理と豊富な飲物)の中で水魚の交わり。大学近くのイタリアン・レストラン、ラ・フェスタに場所を移しての二次会にも19名が参加し、おいしい赤ワインに酔いしれながら楽しいひと時を過ごしました。ディケンズ・フェロウシップの神髓は懇親会にあり、という至言が酔いのさめた今でも脳中を去来しています。

(松岡光治・永岡規伊子)

訃 報 宮崎 孝一 氏

私たち日本支部の初代支部長であった宮崎孝一名誉支部長（成城大学名誉教授）が去る8月31日逝去されました。満90歳になられたばかりでした。宮崎先生は1918年のお生まれで、東京文理科大学をご卒業後、1956年に成城大学に奉職されました。成城大学では文学部長を務められ、さらに学長となりました（1984-90）。この間、ディケンズ没後百周年の1970年に同志とともにディケンズ・フェロウシップの東京支部（現日本支部）を創設され、初代支部長に就任しました。以来、1989年に小池滋氏にバトンタッチされるまで20年間にわたって、日本支部のために献身的に働いてくださいました。最近でもジェニー・ユグロウの『ギヤスケル評伝』を翻訳されるなど元氣にご活躍されていたのに、本当に残念です。心よりご冥福をお祈り申し上げます。

諸 報 告

(1) *The Dickensian*の講読更新

ロンドン本部から会員価格での*The Dickensian*更新手続きの依頼がありましたので、日本支部会員全員分をまとめてクレジットカードで支払いました。このところ急激な円高ポンド安のため、昨年と比べると大幅な負担減になります。

(2) 事務局の移転（予定）

支部長の転勤に伴い、日本支部事務局は2009年4月から東京女子大学に移転します。メールアドレスも変更になりますので、決まり次第ウェブサイトでお知らせします。

会費納入のお願い

新年度会費を同封の郵便振替用紙によりご納入ください。

一般会員 8,000円 学生・院生会員 6,000円

2009年度春季大会予告および研究発表募集

2009年度春季大会は、梶正行さん、武井暁子さんのお世話により、6月20日（土）に中京大学で開催されます。大会では久々に本格的なシンポジウムを行う予定で、前々から準備を進めております。タイトルなどは未定ですが、ほぼ骨格が定まりましたので、ここでご紹介いたします。会員以外から実力派研究者を講師としてお招きしての次のような清新かつ画期的な内容です。どうぞご期待ください。企画を提案され講師との交渉など準備に奔走していただいているのは梶さんです。

タイトル（仮題）「ディケンズと現代作家たち」

司会：原英一（予定）

講師：桑野佳明（流通経済大学）：C・ディケンズとR・キプリング

講師：斎藤兆史（東京大学）：C・ディケンズとV・S・ナイポール

講師：梶 正行（中京大学）：C・ディケンズとベン・オクリ

○研究発表を募集しますので、ご希望の方は、研究発表のタイトルおよび内容要旨を400字程度にまとめたものを、2009年3月末日までに、支部長宛電子メールでお送りください。

ディケンズ・フェロウシップ日本支部事務局

〒980-8576 仙台市青葉区川内27-1 東北大学大学院文学研究科 英文学研究室内

電子メール：hara_ei@sal.tohoku.ac.jp 電話・ファクス：022-795-5959（原支部長直通）